



様式第4号（第7条関係）

令和4年11月4日

東かがわ市議会議長

井上弘志様

東かがわ市議会議員

(会派・個人・その他)

氏名 小松千樹

行政視察等報告書

1	日時	令和4年10月31～11月2日	
2	参加者	朝川弘規・田中久司・渡邊堅次・小松千樹	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		マイレポはんだの概要と災害時における活用について	愛知県半田市役所
		市設置型浄化槽事業 PFI について	大阪府富田林市役所
		VR 安土城高精度型システムの活用について	滋賀県近江八幡市役所
4	研修・調査内容	別紙参照	
5	研修成果	別紙参照	
6	費用	86,400円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

愛知県半田市における「マイレポはんだ」について

・半田市における標記について、下記のとおり、担当職員から説明を受けた。

10/31 14:00～15:30 「マイレポはんだの概要と災害時における活用について」

平成 25 年 4 月、NHK で千葉市の取組が紹介され検討開始。

平成 25 年 7 月アプリ「Fix My Street Japan」で職員が実証実験、実施確認。

平成 26 年 1 月市民参加、市内全域で実証実験。

平成 26 年 10 月運用開始

従来の問題点

<市民>

- どこに連絡すればいいかわからない
- 市役所が開いている時間しか連絡ができない
- 電話では、場所と状況が伝えにくい
- 課題、問題に対してどのように対応しているかわからない

<行政>

- 道路パトロールや点検を実施しているが、見回りきれない。
- 電話では、場所と状況が把握しづらい。
- 現地確認に時間がかかる。

期待される効果

<市民>

- 自分のレポートにより街が改善されることで地域への貢献が実感できる。
- スマートフォン、パソコンでいつでも簡単に課題、問題を伝えることができる。

<行政>

- 行政の目の届かないところの課題、問題が把握できる。
- 現地確認の初動の効率化を図ることができる。

<共通>

- いつでも、誰でも、写真や GPS データで状況や場所を確認できる。

運用ポリシー

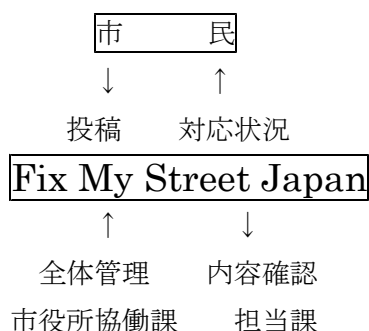
- 市民と市が協働で、課題・問題の解決を図る。
- インターネットにより、24時間365日課題等を投稿可能とする。
- 市は迅速な対応を目指す。
- ニックネームでの投稿も可とする。

- 市の管理外については、市は適切な関係機関に対応を依頼する。
- 騒音、振動、悪臭、民地の問題は原則対応しない。
- 不適切な投稿は、市が削除を行うことがある。

マイレポはんだの位置づけ

- 行政への連絡手段の1つ
- 窓口、手紙、メール、電話ほかに1つ手段が増える。

運用体制



迅速な対応を目指して

問題とカテゴリーにより一次対応する担当課を決める

不適切投稿への対応

投稿の非表示 不適切な投稿と判断したものは、市で非表示の対応をとる

誹謗中傷、差別、プライバシー侵害等

画像の編集 個人が特定される恐れがある写真を編集する

車のナンバープレート表札等ぼかし

運用の中止 不適切な投稿が多くなされ、通常業務に支障をきたす場合は、運用を中止する

災害時情報収集

道路の冠水状況、倒木等の写真と位置情報を幅広く市民から提供してもらうことで、災害情報を共有し迅速かつ的確な対応に

「マイレポはんだ」が目指すもの

身近な地域の課題・問題等の市民ニーズに素早く対応することで、住み良い街を作り住民満足度の向上を図り行政の見える化を促進する

今後について

- ・市民共同のツールとしていく

市に要望するだけでなく、市民の方も解決に協力できる案件について(例：清掃や簡易な修繕等)解決支援者を募り、一緒に解決していく

- ・事業者との連携

市で対応が難しい案件について、地元企業との連携により解決を目指す

感想・今後の取り組み等)

愛知県半田市の「マイレポはんだ」は、市に要望するだけでなく市民の方も解決に協力でき、見える化できる、市民と行政との共通のツールである。本市においてもデジタル化による問題解決の一つのツールとして推進していきたい。

大阪府富田林市における PFI 方式による浄化槽整備事業について

- ・富田林市における標記について、下記のとおり、担当職員から説明を受けた。

11/1 13:30~15:00 「大阪府富田林市における PFI 方式による浄化槽整備事業」

事業の背景	富田林市を流れる大和川は全国河川水質ワースト 3~5 位
平成 8 年	水質汚濁防止法、生活排水対策重点地域に指定 →浄化槽設置費用補助制度の導入
平成 15 年	大阪府生活排水処理実施計画策定
平成 16 年	現状の把握と問題点の早期解決のため、「新・富田林市生活排水対策基本計画」を策定

PFI 方式導入に至った経緯

大阪府が生活排水を 100%適正処理するという目標を掲げ、平成 15 年に「大阪府生活排水処理実施計画」を策定したことを受け、当市では平成 16 年に「新・富田林市生活排水対策基本計画」を策定した。平成 18 年には水洗化が大幅に遅れる地域を下水道全体計画区域から外し、浄化槽区域に設定する事業を開始した。

事業方式は従来方式と発注希望拡大方式と PFI 方式を比較検討した

事業区域の現状

人口 3300 人

事業方針

流域下水道認可区域を縮小し、市設置型浄化槽の整備区域とする

市の責任で浄化槽を設置し保守点検する

使用料金も下水道と同じ料金体系とする

事業方式

民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律に基づく PFI 方式

事業範囲

浄化槽の設置及び保守点検

事業者選定方法

公募型総合評価一般競争入札

事業開始

第一期：平成 18 年 1 月

第二期：平成 24 年 10 月

事業期間

第一期：10 年（※6 年で目標設置基数を達成し、第二期へ）

第二期：10 年（設置も 10 年で実施）

対象施設

個人住宅（専用・兼用）、集会場 等

目標基数

第一期：450 基（対象戸数の 90%）

第二期：325 基（対象戸数の 70%）

感想・今後の取り組み等

大阪府富田林市の PFI 方式による浄化槽整備事業は、市民、行政、民間の 3 者による事業で、公共下水道施設として対応が難しい地域での取り組みとして有効な手段とされる。今後本市の問題解決の一つとして検討していきたい。

滋賀県近江八幡市における VR 安土城高精度型システムの活用について

について

・近江八幡市における標記について、担当職員から説明を受けた。

11/2 13:30～15:30 「VR 安土城高精度型システムの活用について」

VR システム導入のきっかけ

「安土城を幻のままで終わらせたくない」

目的

バーチャルリアリティ技術を活用し、幻の城安土城の復元を行うことで、観光文化振興などの1つのツールとしてまちづくりに役立てていく

背景

平成22年3月21日に旧近江八幡市と旧安土町が合併し、近江八幡市が誕生しており、合併によるスケールメリットを生かした政策の1つとして実施

近江八幡市と旧安土町の観光客数の状況

八幡堀周辺 604,000人 安土城跡 72,000人

旧近江八幡地域から旧安土城安土町域への人の流れの創出が課題

VR システム導入時の補助金活用など

システム導入時に補助金等の活用は特になし

平成25年度のシステム作成費 37,228千円のうち 30,000千円

平成26年度のシアター常設費 15,924千円

計 45,926千円は基金歴史まちづくり基金を充当

平成27年度に規則を定め、作成したコンテンツ画像の使用料を徴収

平成27年度から令和4年10月末現在まで 2,684,040円の収入

VR システム活用による効果と課題

効果

- ・メディア等の活用による広域的な情報発信ができる
- ・地域の宝を身近に感じることができる（市内小中学生の見学）

課題

飽きられないような活用方法の検討（更新の必要性）

毎年の保守運営料が必要（費用対効果の検証）

令和2年12月から令和3年11月 2,082人

安土地域内での周遊、旧近江八幡市域と旧安土地域の周遊の仕掛けづくり

感想・今後の取り組み等

近江八幡市のVR安土城高精度型システムの活用については、重要な地域の遺産をどう活用し、観光客誘致に結び付けるかである。VRの体験は観光客をいかに集客するかと逆に観光客が来なくてもできるもの。課題はいかに現実の観光地と関連付けて集客できるかであると思う。今後本市の観光の在り方について検討していきたい。